

国際コンファレンス

「アジアの取引所の未来」

セッション2 パネル・ディスカッション：アジアにおける東京市場

専門的に特化した都市機能の重要性

コロンビア大学社会学部教授、国際問題研究所共同議長
サスキア・サッセン

概要

グローバル・シティのランキングから都市の本当の重要性について分かることは限られている。基本的な事実として言えることは、完全なグローバル・シティというものは存在しないということだ。現代の経済システムを特徴づけているのは、各都市、各金融センターがそれぞれ特化した専門性をもつことの重要性が増していることである。この点が新しい。1980年代以前には、主要な各国際的金融センターは一連の基本的機能——金融というよりも大部分は銀行機能——をただ複製していた。こうした機能は都市が一般的に有する性質であつたいえる。今日では、そういった一般的な性質はインフラのようなものであり、必要だがそれだけでは十分ではない。今日、都市の特殊性を特徴づけているものは特化した専門性である。中国の4大金融センターは非常に異なり、また、アメリカのニューヨークとシカゴ、日本の東京と名古屋についても同様のことが言える。地域に目を向けてみると、香港とシンガポールは異なっており、東京はそのどちらとも異なっている。世界全体では、複数の、小規模ながら特化した取引所がグローバル・ネットワークの一翼を担っており、そして、例えばランキングが42位だったとしても、こうした取引所は重要である。ブエノスアイレスはヒマワリの種にとって重要な商品市場であり、ヒマワリが取引される唯一の商品でなくても、その市場において同取引所が不可欠で固有な機能を果たしている。東京の場合、その重要でグローバルな機能は非常に複雑なものになっている。東京は、国内から地域、世界まで多様なレベルで機能する様々な主要金融ネットワークの中心にある。